

養豚施設から発生汚水

微細気泡で効率処理

グリーン
ブル
グ
ブ

環境汚染調査を手掛けるグリーンブルー（横浜）市、谷学社長）は、養豚施設から出るふん尿などの汚水処理事業を来年4月に始める。汚水浄化に効果がある微細気泡を発生させる特殊な装置を使用し、メーカーの富喜製作所（埼玉県熊谷市）と業務提携。養豚業者などに売り込み、3年後に売上高3億円を見込む。汚水処理には富喜製作所の装置「ミクロスター」を活用する。空気を含んだ水を特殊な形状のプロペラで混ぜることにより直径数十μ（μは100万分の1）サイズの気泡を発生させる。これを汚水に混ぜればバクテリアが活性化し、浄化や殺菌作用が高まるといふ。

グリーンブルーが開発し、汚水から発生するアンモニアガスの濃度を自動計測する装置「アグス」と組み合わせる。継続的に処理状況を確認することで、ポンプの稼働を最適化していく。従来の処理作業に比べて電力消費量を最大で4分の1に抑えられる。

このほか、処理後の水は特殊な化学物質を含んでおり、豚舎に噴霧するなどすれば浄化や殺菌効果を得られる。既に汚水処理システムの基礎実験を実施しており、来年4月から本格的な販売を始める考え。価格は2000頭規模の養豚施設で1500万〜2000万円を想定しており、国内外の養豚業者のほか自治体向けにも販売する。（高城裕太）

台